

経営比較分析表（令和6年度決算）

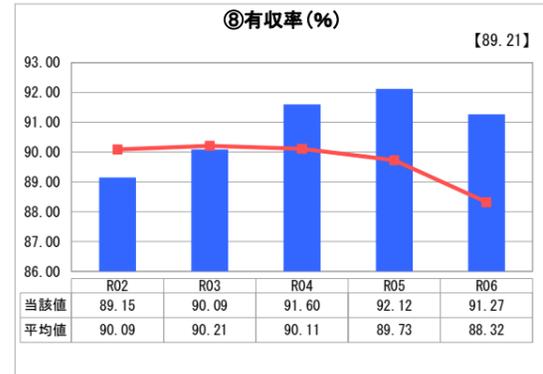
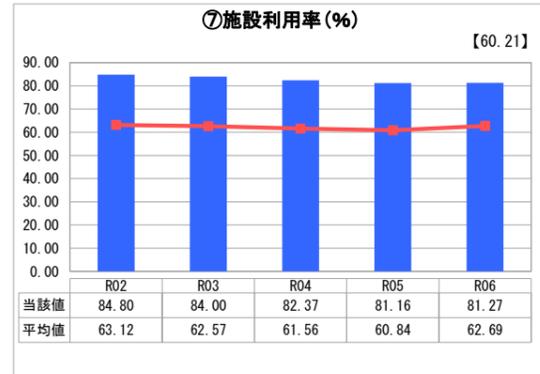
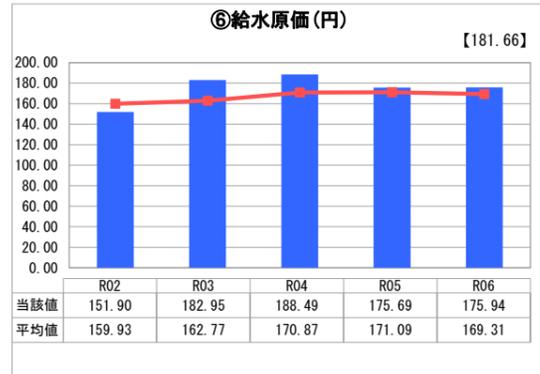
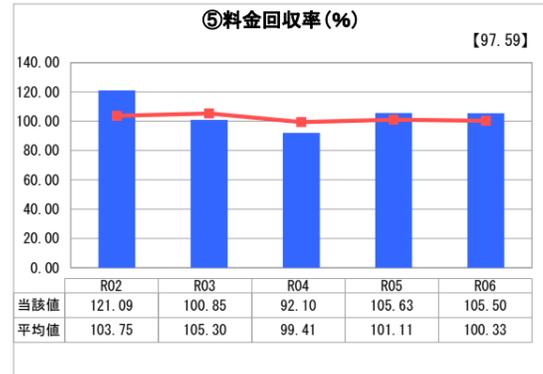
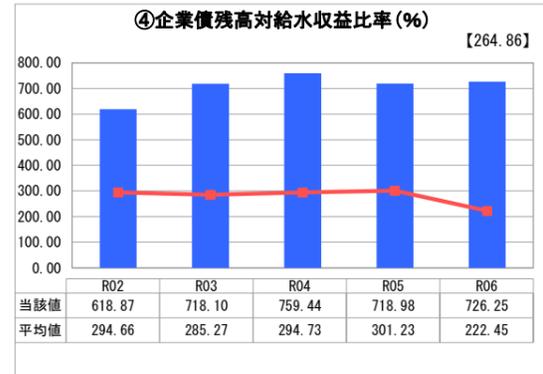
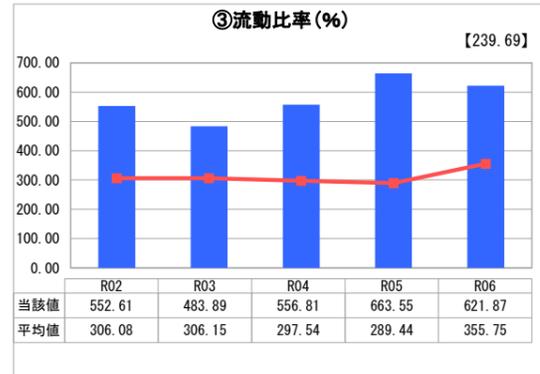
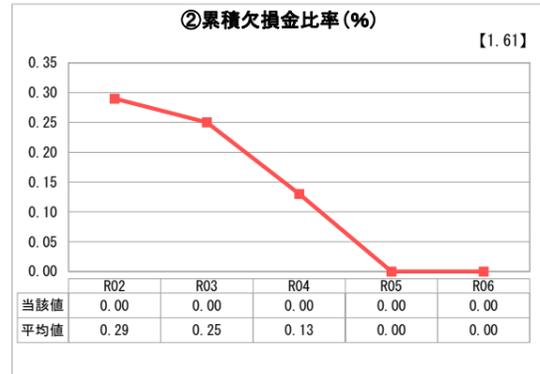
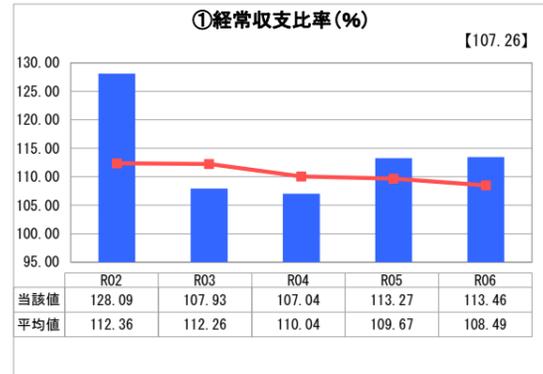
茨城県 ひたちなか市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	46.52	97.86	3,162	

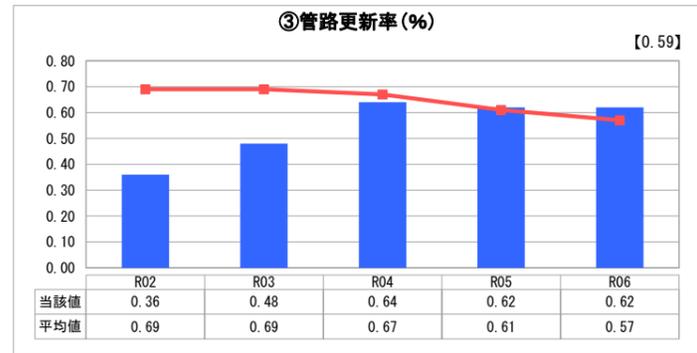
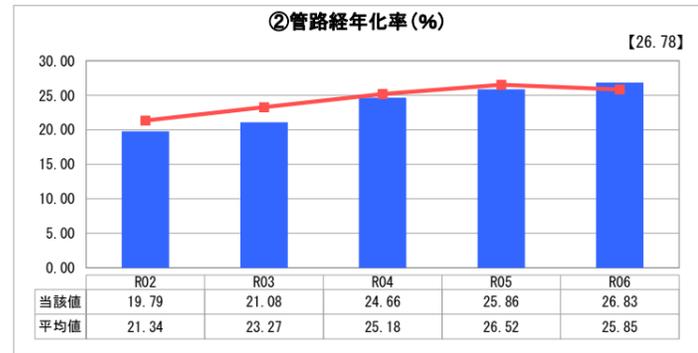
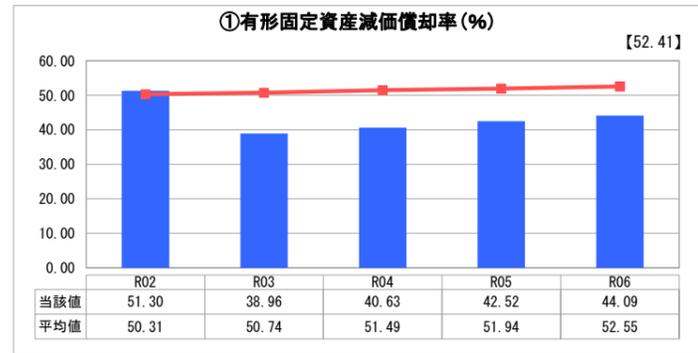
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
154,647	101.02	1,530.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
149,251	101.02	1,477.44

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 料金回収率、⑥ 給水原価については、新上坪浄水場の供用開始に伴う資産減耗費の計上により令和3年度に悪化しましたが、その後は回復しほぼ横ばいで推移しています。

③ 流動比率は、類似団体より高い水準となっており、短期的な財務の安全性は確保されていると考えます。

④ 企業債残高対給水収益比率は上坪浄水場の更新時の企業債借入の影響で、企業債残高が給水収益の7倍という類似団体の平均値を超える値となっていますが、このような状況を見据え平成27年度に料金改定を実施済みであり、経営に影響を与えるものではありません。近年は基幹管路や避難所、防災拠点、病院等の災害時における重要施設に接続する配水管の更新事業の本格化に伴い、比率は高い水準で推移しておりますが、更新計画に基づき実施しているものであり、今後も経営の健全性は保たれるものと考えています。

⑦ 施設利用率は類似団体の平均値よりも高い水準となっていること、⑧ 有収率がほぼ横ばいであることから、適正な施設規模とそれに見合った収益が得られていると考えられます。

2. 老朽化の状況について

令和3年度の上坪浄水場の更新に伴い償却の進んだ資産が減少したことによって、① 有形固定資産減価償却率は一旦は減少しましたが今後は徐々に上昇するものと考えられます。

② 管路経年化率、③ 管路更新率はほぼ横ばいで推移していますが、これは基幹管路や避難所、防災拠点、病院等の災害時における重要施設に接続する配水管等の口径が大きい管の耐震化を優先的に実施しているためです。

全体総括

人口減少等に伴う水需要の減少や、物価高騰等による費用の増加、事業拡張期に整備した管路の老朽化等に起因する更新需要の高まりにより、事業経営は一層厳しさを増すことが予想されます。また、人材確保や技術継承も課題となっています。将来にわたって安定的な事業運営を継続するため、引き続き財政収支の状況を定期的に評価・フォローアップし、適宜計画の見直しを実施するとともに、安定的かつ効率的な事業継続のための方策を検討するなど運営体制の一層の強化を図りながら、健全経営の継続に努めてまいります。